



2024

学校だより 本荘 Smile

令和6年度 第37号
令和6年11月19日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

観劇会に行きました。2学期アラカルト②



10月の1コマです。全校児童で観劇会に行きました。日生劇場ファミリーフェスティバル2024 音楽劇「あらしのよるに」です。アニメでも有名な「あらしのよるに」です。

どんなお話かといいますと

ある嵐の夜、ヤギのメイとオオカミのガブは避難した山小屋で偶然出会い、互いの正体に気づかないまま言葉を交わします。翌日「あらしのよるに」を合言葉に再会した二人は、正体に驚きながらも秘密の友達になります。しかしその関係は群れの仲間に見つかってしまいます。

群れよりも友情を選んだ二人は、仲間から離れ、仲良く暮らせるみどりの森を求め、遠く雪山の向こうを目指して旅立ちました……。

参照: [音楽劇『あらしのよるに』日生劇場ファミリーフェスティバル \(nissaytheatre.or.jp\)](https://famifes.nissaytheatre.or.jp/2024arashi/)

<https://famifes.nissaytheatre.or.jp/2024arashi/>



子どもたちが大好きなドキドキわくわくの世界です。アニメ化もされているようです。

こういった芸術鑑賞の体験は非常に重要です。「本物」を体験させることは、子どもの文化に対する認識をこれまで以上に高めてくれるのです。大人だってそうですよね。テレビの中のクラシックの演奏会やコンサートもよいですが、本物の交響楽団の演奏やアーティストのライブはたまらないという方も多いと思います。本校は、全児童で行くことができるので、こういった体験活動を大事にしているのです。

私が東京に出張するたびにうらやましく思うのがこの点です。都会には、いろいろな文化や本物が地方に比べて多いものです。例えば、JR上野駅を降りますと、目の前には上野動物園、国立東京博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館、東京都美術館、上野の森美術館とそこだけで一日十分に見学できるような施設があります。本物の文化に触れる機会が、より学びを深くするのです。そういった意味もあり、熊本にくらす私たちは、こういった機会を大事にしたいと思うのです。(裏面へ)

しかも、虫眼鏡に載せていますが、この音楽劇に参加するにあたって、本校の3、4年生にワークショップをしてくださいました。なんと、当日の劇に出演されるダンサーの方が2名も来校してくださいましたのです。私自身、このようなワークショップは初めてでしたので興味深く参観していました。ダンサーの方々のご指導でいろいろな動きに挑戦する子どもたち。ダンスのような動きもあれば、何かを模倣した動きもあります。床の上をゴロゴロと転がるような動きもありました。意外なワークショップだったのですが、このワークを行うことで、劇を鑑賞している時の一体感が生まれるのでしょうか。とてもよい経験になったと思います。

当日の参観もとても楽しかったようです。私は途中で急用が入り、学校に先に戻りましたので最後まで見ることはかなわなかったのですが、帰ってきた子どもたちの満足げな表情を見て安心した次第です。改めて「本物は学びを深めることができる」と実感した校長先生でした。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「観劇会に向けたワークショップ」

観劇会の前にワークショップで体を動かす楽しさを体験学習しました。

